

## アストラ野外博物館にみる技術発展の収集と展示 Collection and Exhibition of Technological Innovation of Astra Open-Air Museum

菅沼 聡也  
SUGNUAM Toshiya

### ■野外博物館

ヨーロッパ中央を東西に横断するアルプス山脈東部からカルパチア山脈の周辺に位置するオーストリア、スロバキア、ウクライナ、ハンガリー、ルーマニアなどの国々には野外博物館が数多く開設されている。これらは民俗博物館として開設されている場合が多く、18世紀から20世紀初頭に建てられた農村部の民家を家財道具と共に移築し、生活の状態を保存・展示しているものである。

旧社会主義体制諸国でのこれらの博物館は、政府指導下で自国の優位性を強調する民族主義的傾向が濃厚で、国威高揚を目的とした展示内容であった。1990年以降の新体制下では、学術的視点からカルパチア山脈内を一つの文化圏としてとらえる意見<sup>1)</sup>が出てきている。

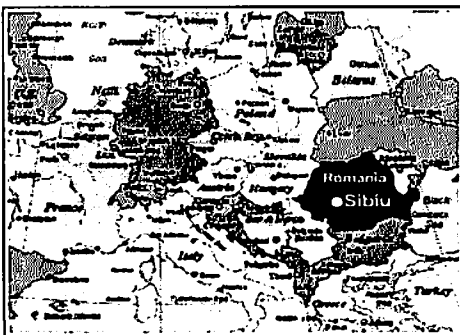


図1:ルーマニアと周辺国

### ■ルーマニアの野外博物館

バルカン半島に位置するルーマニアには全国に11カ所の野外建築博物館が設置され、最も野外博物館が多い国の一つである。これらの博物館は国立博物館として運営され、運営資金は国家予算でまかなわれているが、文化省の予算は他の省庁よりも優先順位が低いため、厳しい予算で運営されている。

1905年にトランシルヴァニア地方南部に位置するシビウに初めて野外民俗博物館が開設された。その後1920年にワラキア、モルドヴァ、トランシルヴァニアの三公国が統一されたのを機に、民族主義の潮流によってクルージュ（1922）、ブカレスト（1936）、ゴレシチ（1942）にも同様の博物館が開設された。1947年に社会主義体制に移行してからは国威高揚のために利用され、ルーマニア人の歴史を見直すという理由で1960年代以降に7カ所設置<sup>2)</sup>され、最も新しい博物館は1986年開設のシゲツ・マルマティエである。

名称は農村博物館もしくは民俗学博物館付属野外展示場となっていることから、民俗学的な見地から収集が始まり、農村文化の記録・保存が主な業務となっていることがわかる。

### ■アストラ野外博物館

ルーマニアのトランシルヴァニア地方南部に位置するシビウ市に開設されているアストラ野外博物館は、1905年にルーマニアで初めての野外建築博物館として開設されたが、1950年に少数民族に関する一部の展示方法が好ましくないという政治的理由から閉鎖され、1963年に展示内容をルーマニア人によって形成された伝統的ルーマニア文化の展示<sup>3)</sup>に趣旨を変更し「民族技術博物館」として再開されている。この博物館のコンセプトはドイツやオーストリアの建築博物館や技術博物館に影響を受けたものである<sup>4)</sup>。1993年に開設時からの活動である展示・保存に教育活動を加え、トランシルヴァニア地方初の総合民俗文化博物館として施設を拡張した。2000年の時点でのコレクションは、340棟の建物とその他の19,000点<sup>5)</sup>に及ぶ数に及んでいる。

開設時の民俗学的視点に加えて、農村部における近代化の過程で行われた技術革新のコレクションを系統的に展示することにより、「農村技術博物館」という独自性を出している。

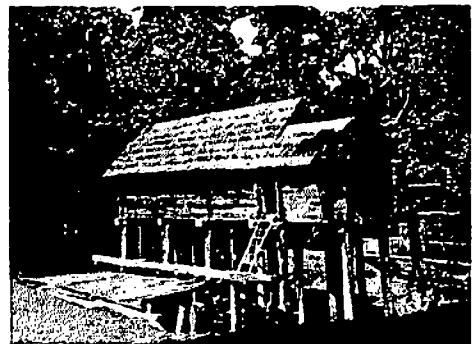


図2:ゴルジュ地方の二連水車

### ■収集

収集品は開設以来の日常生活の様子を保存した家屋と家財道具等に加えて、農業生産性の向上に伴い増加した農産物の加工、運搬に関する技術発展の過程を体系的に捉えたものを、トランシルヴァニア地方を中心にルーマニア全土から収集している。再版農奴制により領主から農民へ賦課された農産物と労働力を拘束されていた農民達は、長期間に渡り劣悪な経済、社会状態におかれていたため、近代化は西ヨーロッパ諸国より

も遅れ、モノカルチャー的産業構造が20世紀中期まで続いたことから産業革命以前の状態が多く地域に残った。そのため、広範な年代の事物の収集が1960年代以降にも可能であった。農民たちによってどのようにして農村が近代化されたかの過程をテーマとして収集・展示をしている。

収集品は以下の4つのカテゴリーに分けられる。

- ・家畜と野菜を元にする食料に関する技術
- ・木材、石材、鋳材などの建築資材に関する技術
- ・動物、植物から衣類等の製造に関する技術
- ・伝統的な運送、通信に関する技術

#### ■展示方法

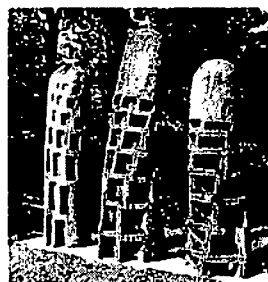


図3:木彫刻展示

博物館は毎年5月1日から10月15日まで一般公開されている。約100haの敷地内は5haの池と1993年に増設された40haの木彫刻展示場から構成され、見学のための通路が総延長10kmに渡り整備されている。

公開期間中は全国から民族舞踊団や民族音楽楽団が集められ、冠婚葬祭や祝日の様子が再現される。

西半分は農村生活を再現した民家を中心とした展示となっている。民家の納屋では家畜を飼い、移築前の日常の状態を再現している。木造教会は移築された際に献堂式を行い、移築前と同様に日曜日の礼拝が行われ、単なるコレクションとしてではなく生きた教会として、常勤の職員や警備の武装警察だけではなく、公開期間中に全国からアトラクションのために集められた民族舞踊団や実演及び修理を行う大工達のために利用されている。

東側半分にはヨーロッパ最大規模である27基の水車と風車を中心としたコレクションが集められている。

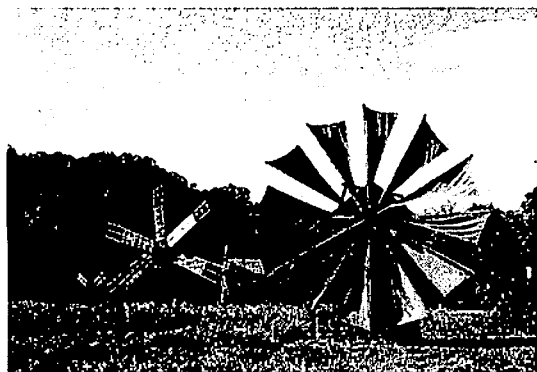


図4:コンスタンツァ地方の風車

このコレクションは潮力水車を除くほぼすべてのヨーロッパで使用されていた形式の水車と風車がそろっている。これらのコレクションは1956年から1962年にかけて集中的に収集されたもので、1963年から一般公開<sup>7)</sup>されている。全ては動態保存するために日々の維持管理が行われている。また、公開期間中には穀物脱穀、製材等の本来の機能を観察することが可能なだけでなく、維持管理のために機能を活用している。

敷地南側に設けられた木彫刻展示場には国内の彫刻家による常設展だけではなく、木彫刻の企画展、教室がもようされ、木材利用の技術振興と普及活動に貢献している<sup>8)</sup>。

#### ■コレクションの維持管理

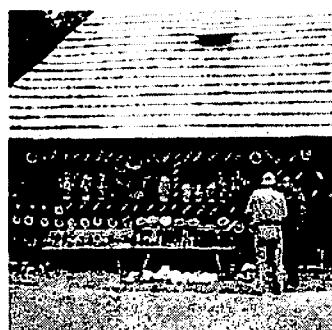


図5:実演販売所

コレクションの大部分は木造で動態保存展示されている。維持管理は敷地内に作業場が設けられ、通常は地元の大工を雇用して行われているが、大規模な修理が行われる際には全国から大工職人が集められる場合もある。

この修理を行う大工職人の資格は国が定めた技能検定に合格した者が行うことにより、特定の地域だけではなく、国全体として伝統的木造技術の維持と継承を行うことを可能としている。また、その技能を活用する場の継続的に提供することにより、後継者の確保にも貢献している。

#### ■まとめ

シビウのアストラ野外博物館は民俗学的見地から収集をはじめたが、現在は農村地域における技術の歴史的発展という見地で収集・保存・展示を行っている技術博物館で、有形のものだけではなく、技術と文化伝統のような無形のコレクションを収集・保存・展示している。この博物館は歴史的技術発展と文化の関係を展示方法を実践している好例といえるであろう。

- 1) "Zakarpattia" Mikhailo Syrokhuman, 2000, L'viv
- 2) "Muzeu si Colectii din România" Ioan Opris, 2002, Bucuresti
- 3) "Cibinium 1967-1968 Muzeul tehnicii populare Sibiu" p15
- 4) "Cibinium 1967-1968 Muzeul tehnicii populare Sibiu" p517
- 5) "Muzeu si Colectii din România" Ioan Opris, 2002, Bucuresti
- 6) die zweite Leibeigenschaft, 農場領主制 F. Engels
- 7) "Cibinium 1967-1968 Muzeul tehnicii populare Sibiu" p413
- 8) "Museum of Traditional folk civilization ASTRA" カタログ